

FcMat 会報

練習から本気

第3号

H25年8月31日
発行

FcMat

志水 麗権

FCMATサッカースクールをスタートさせてから一年が過ぎようとしておりますが、実績の無いクラブに、毎週足を運んで頂いていることに心より感謝申し上げます。日々の送迎や汚れたユニフォーム、夜遅くなる食事など・・・元気に安心して活動できる背景には御家庭の御協力あってこそと思います。それに応えられるのは「グラウンドである」と常時自らに言い聞かせ、スクールの向上に努めて参りました。今後も現状に満足することなく、日々の練習に全力を注いでいきたいと思っております。

さて、先日、滋賀県立野洲高校出身の選手とサッカー談義に十時間ほど花を咲かせました(笑) 野洲高校とは、全国高校サッカー選手権に出場した二度目で二〇〇六年に全国優勝を果たし「セクシーフットボール」と称され、例年に無い注目を浴びたチームです。地元プロクラブが

無いことから、地理的条件に恵まれていることもなく、公立高校のため、金銭的に恵まれている訳でもありません。もちろんスポーツ推薦などで優秀な人材を集めることも出来ません。しかし、全国の頂点に立った要因には、指導者の情熱に支えられたこと、その指導者を信頼し、子供を託し、最後まで子供と夢を求めた保護者の存在、指導者に全幅の信頼を寄せた選手達がいました。選手を金銭や環境で集めて強化したチームをなぎ倒し、世間に感動とサッカーの進歩を与えました。「三位一体」の言葉の通り、固い絆と信頼関係の太さは、以前から私も賞賛しておりましたが、改めて良き教材と考えていきたいと思えます。

言葉が並べられました。しかし、実際は、長きに渡る鍛錬の積み重ねと共に厳しい叱咤激励を受けていた毎日のようです。彼が言うには、「メディアが作った・・・です。創造性や楽しいサッカーも厳しさから出てます。僕らみたいな普通の人間にはBOSがいないとダメなんです。」注目すべきは、小学生から高校生までほとんど同じメンバーで切磋琢磨してきたことです。十二年間という一環指導を可能にしたのは紛れもなく、前述の所以と思えます。

夏休み前から取り入れ始めた「十五種目のドリブル」ですが、最大の焦点は全身運動です。最近の流行では、体幹トレーニングでしようか。ボールを抜いながら約二〇メートルを全速力の中で身体とボールを急転換(フェイント)させ、バランスを保ちながら進んでいくのが特徴です。合計十五往復をこなすことをウォーミングアップとしています。筋肉の変化には一週間に四、五回の筋肉的に強度の高い運動を三ヶ月継続することが必要です。練習を実力に変えるためには、自主練習は欠かせません。また、少しでも意欲があり、都合が合う選手はスクール

の練習回数を増やし、確実に練習を積み上げて欲しいと願います。

現在、週に複数回登録の選手は確実に力をつけており、自チームでも「良いプレー」や「プレーのひたむきさ」に繋がっているようです。個人差はありますが、練習回数とその継続は成長のキーファクターとなっており、間違ったやりません。「人間は変われる!」「上手くなることは負けたくない」と信じ続け、諦めない気持ちだが、いつか報われる努力であると思えます。

今後クラブとしては、ジュニアユースチーム(中学生)の設立、強化スクールの開始、スクール生の増員を目標に掲げ、子供達が快くサッカーにいそしめる環境を提供していきたいように努めていきます。今後とも保護者の皆様には御支援・御協力をお願い申し上げます。



闘え!!